

議会運営委員会 行政視察調査報告書

- 1 視 察 日 2026年 8 月 5 日（水）～ 6 日（木）
- 2 視 察 先 ○島根県松江市
調査事項 ・議会改革の取り組みについて
 ○鳥取県鳥取市
 ・議会改革の取り組みについて
- 3 視 察 者 副 委 員 長 福 田 嗣 久
 委 員 石 田 田 清
 委 員 太 田 智 博
 委 員 芹 澤 正 志
 委 員 竹 中 理
 委 員 森 垣 康 平
 議 員 米 田 達 也
 副 議 長 浅 田 徹
 議会事務局 清 水 寛
 坂 本 英津子



議会改革の説明を聴く委員（松江市）



議場にて（松江市）



議場にて（鳥取市）



AI 字幕表示の説明を聴く委員（鳥取市）

日 時	2026 年 8 月 5 日（水） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分
視 察 先	島根県松江市
調査項目	議会改革の取り組みについて
調査内容	1 議会改革の取り組み 2 議会の災害時対応について
所 感	【議会改革の取り組み】 議会の活性化を図り、もって議会が市民の負託にこたえ、市民福祉の向上や公正で民主的な市政の発展に寄与することを目的として議会基本条例を平成 20 年に制定。 平成 22 年に全 29 公民館区で議会報告会が開催され、その後は常任委員会単位で所管事務関係団体と意見交換会等が行われている。 平成 27 年には市災害対策本部と連携を図り、市民の安全確保や災害対応活動を行うため、災害発生時対応要領及び災害発生時の議員行動マニュアルを策定。 令和 4 年からはケーブルテレビで議会報告番組を放送し、各常任委員会等の委員長が報告を行い、またケーブルテレビ公式 YouTube チャンネルで映像配信も実施。 令和 5 年には会議録検索システムが導入され、常任・特別・議会運営委員会の会議録のシステム掲載が開始された。また電子採決システムの導入により、議案及び請願・陳情の採決については、原則電子採決により実施されている。 令和 6 年にはタブレット端末を全議員に貸与し、本会議や委員会関係資料についてペーパーレス化が進んだ。 【議会の災害時対応について】 議員は発生直後の支援本部設置前では、自身や家族等の安全確認と速やかな安全場所への避難を優先し、支援本部の指示があるまでは、各自の判断に基づき行動。その後、事務局への安否報告及び連絡体制を維持する。 正副議長及び各会派代表者で災害対策支援本部の設置を検討。 支援本部設置以降は各地域での情報収集を行い、状況によっては全員協議会等の会議に出席して、情報の共有及び整理をし、これをもって災害対策本部に情報を提供する流れである。 令和 4 年には、休日の災害発生を想定した対応訓練を実施。課題を現実的に捉え、議員としてどのように行動するかを考える機会となる。 公正性と透明性を高め、分かりやすく参加しやすい議会を運営していくことが議会改革の柱となると感じた。 災害時の対応は議員として主体的に関わり、市民の安全確保と災害復旧に向け、迅速かつ適切な活動ができるよう努めていきたい。

日 時	2026 年 8 月 6 日（木） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分																						
視 察 先	鳥取県鳥取市																						
調査項目	議会改革の取り組みについて																						
調査内容	1 これまでの議会改革の概要と成果 2 委員会の公開の効果と課題 3 議会報告会・意見交換会の参加状況と意見を市政に反映する仕組み 4 障害者に配慮した議会中継及び手話通訳の配置と設備 5 災害時の議会の対応																						
所 感	【会議の公開】 市民に信頼され開かれた議会を目指し、議会改革に係る調査研究及び提言を行うことを目的とし、常設の協議又は調整を行う場として「議会改革検討委員会」を平成 25 年に設置している。 この検討委員会は、定数 32 名のうち 9 名で構成されている。 今回の視察では、特に上記調査内容 4 を中心に調査した。 【A I 翻訳の字幕表示と手話通訳】 会議の公開の一環として、令和 4 年 9 月から、手話通訳付きのケーブルテレビ中継映像と傍聴席の専用モニターに A I 字幕を表示している。障害者団体からの要望を踏まえたものである。 また、傍聴席の専用モニターによる映像であるが、モニターは 2 台で、1 台は会議と手話通訳の映像が流れ、もう 1 台には振り仮名付きの A I 字幕が映し出されていた。2 台に分けたのは、会議と手話通訳及び A I 字幕が混在して見にくくなるのを避けるためである。 手話通訳者は、概ね開会日が 2 名、開会日以外が 3 名であり、聴覚障害者協会に業務を委託し、派遣者を調整していただいているとのことであった。 質問当日本番で通訳に臨むのは負担が重いとのことで、事前に質問原稿が提出されている。質問議員の概ね 6 割が応じている。 なお、A I 字幕の誤変換を減らすため、議員の氏名や議会の専門用語などはあらかじめ辞書登録されている。 ※経費 (単位：千円) <table><tr><th colspan="2">イニシャルコスト</th><th colspan="2">ランニングコスト</th></tr><tr><td>字幕変換機</td><td>2,420</td><td>ウェブ中継</td><td>506</td></tr><tr><td>字幕表示モニター</td><td>385</td><td>手話画面</td><td>528</td></tr><tr><td></td><td></td><td>傍聴席字幕</td><td>528</td></tr><tr><td></td><td></td><td>手話通訳配置</td><td>1,891</td></tr></table> ※その他本会議中継経費 ケーブルテレビ議会中継経費 5,508 インターネット配信経費 2,904 その他スマートフォン対応経費等 1,012 質問当日本番で、音声だけの当局・議員間のやりとり、質問者資料パネルの掲示だけでは、理解しづらい点がある。傍聴や中継ではなおさらである。経費の課題をクリアし、会議公開の一環として文字・視覚の活用を進めたい。			イニシャルコスト		ランニングコスト		字幕変換機	2,420	ウェブ中継	506	字幕表示モニター	385	手話画面	528			傍聴席字幕	528			手話通訳配置	1,891
イニシャルコスト		ランニングコスト																					
字幕変換機	2,420	ウェブ中継	506																				
字幕表示モニター	385	手話画面	528																				
		傍聴席字幕	528																				
		手話通訳配置	1,891																				